

「なりたい私」になりたい

たなか まさみ
田中 昌美

私は、高次脳機能障害の当事者の田中と申します。

【高次脳機能障害】とは、交通事故や頭部のケガ、脳疾患等で脳が損傷されるために起こる病気を【高次脳機能障害】と言います。

10年前、海綿状血管腫（良性の脳腫瘍）と診断され、診断から半年後に腫瘍摘出のための開頭手術を受け、その3日後に言葉を失い、高次脳を発症しました。

高次脳にはいくつかの症状があります。

私はその中の記憶障害、失語症、遂行機能障害と診断されました。

どの症状も外見からは分かりにくいいため、【見えない障害】とも言われております。

目に見える障害も、見えない障害もとても辛い現実です。

発症当時は、生活すること全てが困難なことばかりでした。

今まで普通に作っていた家族の食事、友人や知人と普通に交わした約束、たあいもない普通の会話、病気をしたことで、私の中の普通が普通ではなくなりあの日を境に、突然全ての普通が一変しました。

ご飯の作り方が分からない。友人と約束した予定を思い出せない。

なにげない会話も言葉がでない。自分の感じたこと、思ったこと、全てがうまく伝えられないし、どんな言葉を使えばいいのかさえも分からなくなっていました。

入院中は「おはようございます」はいつ使う言葉なのかも分からなかったです。

健常時の自分を知っているからこそ、病気になった時の自分を受け入れるには相当の時間が必要でしたし、受け入れなければならない現実と、受け入れられない現実との葛藤の日々でした。

先にご飯の作り方が分からないと申し上げましたが、その分からないということが、きっと分からないと思います。

どんな状況かといいますと料理の手順や、材料が思い出せないのです。

携帯で作りたい料理を検索し、材料をやっとのおもいで思い出し、作ろうとしても、今度は分量が分からない。その分量というのは、だいたいこの量でこのくらい的人数分ができるだろうという想像が出来なくなりました。当時のご飯は毎回、量が多いか、少ないか極端な食事でした。私は記憶障害もあったのでお買い物をしたことや、自分の食べたもの、薬を飲んだことなど4時間程度の記憶しか持続しなかったため、今振り返るとそんな状態でも日々頑張っていたんだな、と涙がでるときがあります。

失語症についても、少しお話しさせて頂きたいと思います。

失語症は文字通り【失語】なので、言葉が出ないと言うことはきっと想像できると思いますが、失語症は言葉だけではなく、聴く、読む、書く、計算する、ということもできなくなります。

私の場合は、単語や文字の名前は、時間はかかりましたが言えました。しかしそれを文章として繋げることがとても難しかったですし、聞き取るのも単語しか頭に入らないので、何を言っているのかが全く分からなかったです。

今も複雑な文章は苦手なので、職場や家族には、短い文章で、端的に伝えてもらっています。それでも分かりにくいときは、筆談をお願いしてます。文字にしてもらうことで理解度はあがります。

数字に関しては、壊滅的でした。発症当時、リハビリで足し算の計算式を見たとき何かの暗号かと思ったのを、鮮明に覚えています。言語のリハビリは毎日泣きながら受けていました。

当時の主治医の

「日に日に出来るようになるろうとは思わず、年々色々なことが出来るようになっていきますよ。」という言葉が理解できるようになったのは、発症5年くらいが経過したころだったと思います。月日が経つにつれ、自分と同じ病気の人がどんな生活をしているのかが気になり始めネットで色々なことを検索しました。

そしてその頃から、見える景色が少しずつ変わってきました。

少しずつですが、小さな成功体験を重ねることで、自分に自信が付き、外出できる機会が増えていきました。

外へ出る、ということは、成功体験ばかりではありませんでしたが、出来ない事をなげくより、できた事を喜べるようになりたいと思い日々落ち込むことは山ほどだったけれど、気持ちだけは前向きでいたいと思い極力外出するように心がけました。

今年の10月で高次脳を発症して丸10年を迎えました。

改めて思うことは、病気をして良かったと思うことは一度もないけれど、この病気をしたことで新たな出会いがあり、そして新たな自分を見つけることができましたし、なにより言葉を伝えることの素晴らしさを知ることができました。

これからは、病気をしたことで、病気の陰に隠れることなく、会いたい人がいれば会いに行きたいし、行ってみたい場所があれば行きたいしやりたいことがあればやってみたい。

なによりなりたい私になりたいと思えるようになりました。

病気をしたことを嘆き悲しむより、これで良かったんだと思える人生にしたい。

そして病気をして明るい未来が描ける世の中であってほしい。

【高次脳機能障害】という病気を沢山の人に興味をもってもらえる世の中になってほしいと切に願います。